



目標16: 平和と公正をすべての人に

16 平和と公正を
すべての人に



少年時代に満州で壮絶な戦争体験をされた俳優の宝田明氏。2024/8/21 毎日新聞の記事を読み、私自身、とても胸に刺さるものがありました。宝田氏の体験を通して平和の尊さを考える機会を城工の皆さんと共有したいと思い紹介させていただきます。

宝田氏は1934年朝鮮・清津生まれの旧満州ハルビンに育ち。11歳の夏、旧ソ連兵に右腹を銃撃され、手術器具も麻酔もない中で元軍医による裁縫ハサミで弾を摘出。その弾は国際法で禁止の鉛のダムダム弾。その後、苦勞の末に日本へ帰国。が、満州の体験が、ロシアの素晴らしい映画やバレエを観ようがどうしても許せない気持ちが消えず、晩年までその「シコロ」が残る。これがこそが戦争の罪・愚かさだと・・・。

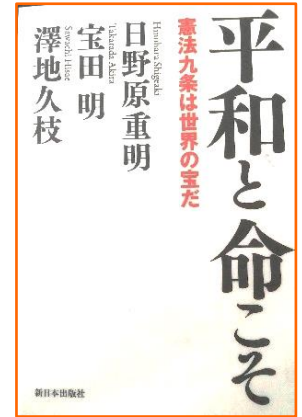


宝田氏は、俳優として数多くの映画に出演されています。皆さんも知っている「ゴジラ」、第一作目のゴジラ映画に出演されています。これは怪獣映画ですが、水爆実験でゴジラという怪獣が現れるので、反戦映画ともいえるのではないのでしょうか。残念な事に2022/3にお亡くなりになっています。この記事は宝田氏への追憶と平和活動について書かれたものです。俳優業の傍ら「反戦や平和」活動をされており、半生を綴った舞台「宝田明物語」の中で「人は誰も幸せを求めて生きている。愛と優しさ・温もりを探し続けている。それなのにどうして人は殺しあうのだ。相手の幸せを考えれば、争いは起きはしない。相手の立場を考えれば、争いは起きはしない。」と。日本は、戦後80年、戦争をしていない国。私は、この記事を読んで、**今の平和を守りぬくために、私たちのような若い人たちも政治に関心であってはいけない、政治に目を向け選挙に行くこと。そして「戦争を止める責任」「戦争を起こさない責任」がある**のではないかと、宝田氏の壮絶で悲惨な戦争経験を伺い知り、痛切に感じました。

☆平和と命こそ☆

右の本は、宝田明氏、医師の日野原重明氏、ノンフィクション作家の澤野久枝氏らの「九条の会」の活動をもとに綴られた本です。左の記事で紹介しきれなかった宝田氏の満州での地獄の体験からくる平和への強い思い、日野原氏の医師の立場から、澤野氏の作家の目をおした各筆者の憲法9条を守り抜く意志、戦争を憎む気持ち易い文章で書かれています。**日本の「憲法9条が世界の宝」**だと気づきかされた本です。この本は図書室にあります。

是非とも、城工のみなさんに読んでほしい一冊です！



「平和」について考えてみる

宝田明氏は俳優業も続けながら、少年期のおぞましい戦争体験から、世の人々へ戦争の愚かさ、平和への願い想いを語りついでおられました。が、しかし、世界では依然として紛争が絶えない地域があり、ロシアとウクライナの戦争問題など。日本国内に目を向けると、昨年元旦の能登半島地震。1年が過ぎようとしているのに、未だに復興されていません。これで日本は本当に「平和な国」といえるのでしょうか。これまで平和について深く考えることはありませんでした。新聞記事や本を読んだことで「真の平和」について考えさせられました。『平和』とは、『安全な暮らし』とは、戦争を起こさないために私達には何ができるか……。高校2年生の今の私には、できることは少ないかもしれませんが、**まずは考えてみる**ことが「平和への第一歩」につながるのではないかとこの考えにたどり着いた気がします。

文責: 図書部部長 M2-2 N・Y